

春待つオオムラサキの幼虫

秦野・渋沢の霊園計画地 自然保護団体が観察会

里山の生き物や自然環境に詳しい映像作家、吉田嗣郎さん―秦野市千村―が講師を務める自然観察会が23日、同市渋沢であった。渋沢・峠地区にある八国見山(319m)の南面区域に約20畝の大規模霊園が計画されていることから、同山周辺の自然環境の保全活動に取り組む「渋沢丘陵を考える会」(日置乃武子代表)が企画した。

吉田さんは、自然や野生動物の撮影を専門とする映像製作会社「ネイチャーシネプロ」の代表を務める。参加者29人は吉田さんの案内で八国見山に登り、国蝶オオムラサキの県内最

大の生息地の一つとなっている霊園建設予定地周辺を散策した。

参加者は、エノキの根元で越冬するオオムラサキの幼虫を見つけると歓声を上げ、枯れ葉と同様の保護色をした幼虫をカメラに収めた。続いて、同市千村の四十八瀬川近くにあり、冬でも水を張っている「冬水たんぼ」に移動し、ヤマアカガエルの卵やミスカマキリ、アカハライモリなどを見つけた。

参加した「丹沢ブナ党」の梶谷敏夫代表は八国見山周辺について「小田急渋沢駅から歩いて1時間もかからないところに、素晴らしい自然が残っていることに感動した。このままの姿で未来の子どもたちに引き継いでいきたい」と話していた。

【高橋和夫】

越冬するオオムラサキの幼虫

―菅原由起夫さん提供

